

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2013(平成25)年4月15日 第474号

(公財)東京都予防医学協会  
予防医学事業中央会東京都支部  
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402  
東京都新宿区市谷砂土原町1-2  
保健会館 電話 03-3269-1131



http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行

## 日本総合健診医学会 第41回大会より 健康教育と総合健診

### 小児期からの教育で 生涯にわたる健康習慣の確立を

生活習慣病の予防には、その原因となる食習慣や運動習慣などの改善が必要である。しかし、一度身についた生活習慣を大人になっから改めることは容易なことではない。この4月からスタートした健康日本21(第2次)では、学校での健康教育の一層の充実を図ること、子どもの頃から健全な生活習慣を身につけ、生活習慣病予防の基盤を固めることを目指している。こうした中、1月25日、26日の両日、宮城・仙台市で開催された日本総合健診医学会第41回大会(大会長・千哲三進興会理事長)では、「健康増進の確立へー健康教育と総合健診」をメインテーマに、多数の講演やシンポジウムが行われた。今回は、メインテーマに沿って行われた大会長シンポジウムの概要を紹介する。

大会長シンポジウム(司会・千哲三大会長、山上孝司北陸予防医学協会理事)の冒頭、千大会長は、「健康教育の中でも、小児期からの健康教育は特に重要と考えている。これにより、健康な生活を維持するための習慣が身につくこと、自らの意思で求めたい時代がつけられていくことを願っている」と述べた。

学ぶことができる貴重な機会である」と述べ、学校健診が学習の場であり、生活習慣を見直す健康教育の場であることとを強調した。

そして、「児童生徒が生涯にわたり、自らの健康状態に関心を持ち、積極的に健康に関わり、早期時期から発達段階に合わせた必要な知識と実践力を育成していくことが必要である」と説いた。

最後に、道永常任理事は、「地域保健の中で生涯保健を捉え、推進する」「地域の中で地域学校保健、地域学校安全の推進」など、日本医師会からの提言を紹介し、「家庭と地域との連携など横のつながりが広がるよう、医師会が中心となって働きかけていきたい」と述べた。

千大会長は、「これからの危険行動には、それぞれが単独に起こるのではなく相互の関連性が強いこと、小児期から始まり成長と共に進行していくこと、一度始まると脱却が非常に難しいこと、といった3つの特徴がある。従って、個別の対応ではなく総合的な対応が必要である。また、危険行動が始まらないように予防することが最も重要で、そのためには子どもの頃からの系統的な働きかけが対策の鍵となる」と述べた。

さらに、健康教育、保健教育にかかわる中核的な内容が保健学習であるとして、「保健学習は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の育成を目指して行われており、これを系統的に小学校から高等学校に積み重ねていくプログラムになっている」と述べ、その取り組みの詳細について解説した。

「これからの危険行動には、それぞれが単独に起こるのではなく相互の関連性が強いこと、小児期から始まり成長と共に進行していくこと、一度始まると脱却が非常に難しいこと、といった3つの特徴がある。従って、個別の対応ではなく総合的な対応が必要である。また、危険行動が始まらないように予防することが最も重要で、そのためには子どもの頃からの系統的な働きかけが対策の鍵となる」と述べた。

また、学校健診では事後措置が極めて重要という認識を示し、その上で、健康日本21(第2次)での「次世代の健康」の目標設定について「健康診断、事後措置、健康教育」といったPDCAサイクルを繰り返すことで、生涯を通じて健康づくりが推進されていくことになる」と解説した。

官は、健康教育の法的根拠である教育基本法に触れて、「学習指導要領の理念の基となる『生きる力』について、その第2条で、『幅広い知識と教養を身につけ、真理を求め、道徳心を養い、豊かな情操と道徳心を培うと共に、健康な身体を養うこと』としており、知、徳、体のバランスで『生きる力』を育てていくことが明確に規定されている」と説明した。

道永常任理事は、「生活習慣病の発症予防・重症化予防は、健康教育によって実現可能である。日本医師会では、子どもの頃の健康教育が生涯保健の基盤になると考え、取り組んでいる」と述べた。



3月21日に完成した本会の検査研究センター [4面に関連記事]

最初に岐阜薬科大学の勝野真吾学長が、健康教育を専門とする立場から「学齢期からの健康教育」と題して講演した。

勝野学長は、1990年代のはじめにCDC(米国疾病予防管理センター)が示した青少年の6つの危険行動(①故意または不慮の事故に關わる行動②喫煙③飲酒および薬物乱用④危険な性行動⑤不健康な食行動⑥運動不足)を紹介し、その

#### ● 今月の主な紙面 ●

- (1面) ● 日本総合健診医学会第41回大会より  
健康教育と総合健診
- (2・3面(見開き))
  - 連載 予防医学事業のこれまでとこれから 第8回
  - 話題 第237回学校保健セミナー  
思春期特発性側弯症 治療と今後の展望
  - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ  
働くシニア! 応援シリーズ 第10回:保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● 腎臓検診、心臓検診の打ち合わせ会開く
  - 予防医学技術の向上を目指して  
第47回予防医学技術研究会議
  - 検査研究センター棟が完成 竣工式を行うー本会
  - ドクターミーティング、ナースミーティングー本会
  - 本会年報2013年版ができました

#### 個人情報取扱について

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

#### 健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江崎良晴 三輪祐一

お問い合わせ・  
ご相談は事務局まで  
(予約制)

健康管理コンサルタントセンター  
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2  
(公財)東京都予防医学協会  
電話 03-3269-1141

送付先の変更・  
中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール  
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp  
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。



# 腎臓検診、心臓検診の打ち合わせ会開く

## より質の高い学校健診に向けて



腎臓検診打ち合わせ会(上)と心臓検診打ち合わせ会(下)の様子

本年度となり、小・中・高等学校では児童生徒の健康診断が一斉に始まっている。本会では例年、これに先立ち、検診を担当する小児の腎臓病、心臓病の専門医らと本会スタッフによる打ち合わせ会を実施している。今年は、腎臓検診の打ち合わせ会を3月8日に、心臓検診の打ち合わせ会を3月21日に開催した。さまざまな問題を討議し、関係者間の共通理解を深めた。

打ち合わせ会では、それぞれの検診の2012年度の実施予定実績や、13年度の実施予定件数が報告された。また、文部科学省の学習指導要領の変更に伴い、11年に改訂された学校生活管理指導表(日本学校保健会)の使用(順不同・敬称略)を開始するにあたって、運用上の確認なども行われた。この他、より質の高い検診を目指し、さまざまな討議が行われた。今回、打ち合わせ会に参加した医師は次の各氏である(順不同・敬称略)。

### 本会

- ▽腎臓検診
  - 村上市美(日本医科大学名誉教授)
  - 五十嵐徹(同大学講師)
  - 張田豊(東京大学医学部講師)
  - 宿谷明紀(同大学医学部准教授)
  - 高橋昌里(同大学医学部准教授)
  - 浦上達彦(同大学医学部准教授)
  - 大友義之(順天堂大学医学部准教授)
  - 元吉八重子(東京医科歯科大学助教)
  - 大森多恵(都立墨東病院院長)
  - 佐藤舞(国立成育医療研究センター)
  - 西堀由紀野(杏林大学医学部助教)
  - 土屋正己(同大学小児科部長)
  - 服部元史(東京女子医科大学教授)
  - 松山健(公立福生病院副院長)
  - 北川照男(同大学医学部名誉教授)
- ▽心臓検診
  - 浅井利夫(東京女子医科大学名誉教授)
  - 本間哲(同大学講師)
  - 鮎沢衛(同大学医学部准教授)
  - 神山浩(同大学医学部助教)
  - 本田崇(北里大学医学部)
  - 伊東三吾(篠原病院院長)
  - 深澤隆治(日本医科大学准教授)
  - 稀代雅彦(順天堂大学医学部准教授)
  - 高橋健(同大学医学部准教授)
  - 秋元かつみ(同大学医学部助教)
  - 佐地勉(東邦大学医学部助教)
  - 鈴木淳子(八重洲クリニック)
  - 大塚正弘(都立墨東病院部長)
  - 石井卓(東京医科歯科大学助教)
  - 赤木美智男(杏林大学医学部教授)
  - 村上保夫(日本心臓血管研究振興会常務理事)
  - 山岸敬幸(慶応義塾大学医学部講師)
  - 原光彦(都立立尾病院部長)
  - 弓倉整(板橋区医師会)
  - 北川照男(同大学医学部名誉教授)

**ドクターミーティング ナースミーティング** 本会

本会では、健康診断に従事する医師や看護師と関係スタッフによるミーティングを毎年開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深め、健診サービスや精度の向上を図っている。

3月2日に行われたドクターミーティングには、地域や職域の健康診断を担当する医師を中心に、本会のスタッフなど約50人が出席した。ミーティングでは、2013年度の事業概要や健診を取り巻く状況の報告が行われた他、昨年導入した集計結果の活用方法、順天堂大学大学院医学研究科の河盛隆造教授に監修いただいた糖尿病と尿酸値の判定区分表などが解説された。

このうち糖尿病の判定区分表は、HbA1cと血糖のどちらかしか検査していない人にも対応できる上、空腹時や食後に採血した人にも対応できる内容となっている。

一方、2月8日に行われたナースミーティングには、本会の健康診断に従事している看護師をはじめ、関係スタッフら約40人が出席した。ミーティングでは、現場で起こるさまざまな課題への対応策や健診業務での変更点などについて説明が行われた他、よりよいサービスの提供や事故防止のための意見交換なども行われた。

## 予防医学技術の向上を目指して 第47回予防医学技術研究会議

「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマに、第47回予防医学技術研究会議(主催・予防医学事業中央会、福島県保健衛生協会)が2月13日~15日の3日間、福島市で開催された。

技術研究会議には、全国の予防医学中央会支部から臨床検査技師、放射線技師、看護師、保健師、渉外担当者、シ

「検査技術」「健診技術」「心臓検診」「超音波検査」「保健指導」の6部門では、本会のスタッフが、座長や口演を行った。

今回の研究発表では、各種がん検診や「細胞診」「CKD」など14部門、87題が行われた。このうち「検査機器の検討」

「検査技術」「健診技術」「心臓検診」「超音波検査」「保健指導」の6部門では、本会のスタッフが、座長や口演を行った。

また、教育講演として自治医科大学の櫻林郁之介名誉教授による「動脈硬化性疾患予防のガイドライン」(座長・鈴木仁福島県立医科大学名誉教授)が行われた。

動脈硬化のリスクを予防するガイドラインが、複数の学会から公表されていることから、櫻林名誉教授がおの

「検査技術」「健診技術」「心臓検診」「超音波検査」「保健指導」の6部門では、本会のスタッフが、座長や口演を行った。

また、教育講演として自治医科大学の櫻林郁之介名誉教授による「動脈硬化性疾患予防のガイドライン」(座長・鈴木仁福島県立医科大学名誉教授)が行われた。

## 検査研究センター棟が完成 竣工式を行う



検査研究センター棟の竣工式の様子

本会の検査研究センター棟が完成し、3月21日に竣工式が執り行われた(写真)。

本会では、新生児の先天性代謝異常症検査や妊婦甲状腺検査などの母子保健事業をはじめ、子宮がん細胞診や各種の血液検査、便潜血検査、尿検査など、検体検査による多

本会内に点在していたこれらの検査関連部門を同棟に集約することで、部門間の協体制の一層の強化と作業効率の向上を図る。また、本会では受診者により快適に過ごしていただける

施設づくりを目指して、保健会館本館の大規模改修工事を進める。北川照男本会理事長は、「改修工事の間、受診者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご協力をお願いしたい」と、ユーザーの理解を求めている。

## 東京都予防医学協会年報 2013年版 第42号 (平成23年度活動報告) ができました

本会のホームページ <http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/> からダウンロードいただけます。

●各分野の執筆者とテーマは下記のとおりです(敬称略)●



この「年報」をご希望の方は、本会広報室までお問い合わせください。(03-3269-1131)

- 【I 学校保健】**
  - 心臓病検診「心臓病検診の実施成績」浅井利夫(東京女子医科大学名誉教授)
  - 腎臓病検診「腎臓病検診の実施成績」村上睦美(日本医科大学名誉教授)
  - 糖尿病検診「小児糖尿病検診の実施成績」浦上達彦(同大学医学部准教授)
  - 脊柱側弯症検診「脊柱側弯症検診の実施成績」南 昌平(聖隷佐倉市民病院名誉院長)
  - 小児生活習慣病予防健診「小児生活習慣病予防健診の実施成績」村田光範(東京女子医科大学名誉教授)
  - 貧血検査「貧血検査の実施成績」前田美穂(日本医科大学教授)
  - 寄生虫検査「寄生虫検査(学校保健分野)の実施成績」本会検診検査部
- 【II 地域・職域保健】**
  - 定期健康診断・基本健康診査「定期健康診断の実施成績」須賀万智(東京慈恵会医科大学准教授) / 「胸部X線検査の実施成績」金子昌弘(本会呼吸器科) / 「住民健診の実施成績」本会地域保

- 健部
- 特殊健康診断「特殊健康診断の実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)
- 保健指導事業「保健指導の実施成績」本会健康増進部
- 人間ドック「人間ドックの実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)
- 超音波検査「超音波検査の実施成績」本会検診検査部
- クリニックの外来診療「クリニックの実施成績」小野良樹(本会保健会館クリニック)
- 【III 母子保健】**
  - 妊婦甲状腺機能検査「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」百瀬尚子(本会内分沁科)
  - 性感症検査「東京地区におけるクラミジア・トラコマチスおよび淋菌検査の実施成績」北村邦夫(日本家族計画協会家族計画研究センター所長)
  - 新生児スクリーニング検査「新生児の先天性代謝異常症のスクリーニング成績」本会母子保健検査部 / 「先天性甲

- 状腺機能低下症(クレチン症)の新生児スクリーニング実施成績」杉原茂孝(東京女子医科大学教授) / 「先天性副腎過形成の新生児マス・スクリーニング実施成績」鹿島田健一(東京医科歯科大学大学院) / 「新生児マス・スクリーニングで発見されたフェニルケトン尿症の長期追跡」大和田 操(本会代謝病研究部)
- 【IV がん検診】**
  - 胃がん検診「胃がん検診の実施成績」本会放射線部
  - 肺がん検診「肺がん検診の実施成績」金子昌弘(本会呼吸器科)
  - 「東京から肺がんをなくす会」の検診「『東京から肺がんをなくす会』の実施成績」金子昌弘(本会呼吸器科)
  - 大腸がん検診「大腸がん検診(便潜血反応検査)の実施成績」本会検診検査部
  - 子宮がん検診「子宮がん検診(グリーンルーム)の実施成績」伊藤良彌(本会婦人検診部)

- 東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診「子宮がん細胞診の実施成績」長谷川壽彦(本会常任学術顧問) / 「レディース外来(レディースクリニック)の実施成績」長谷川壽彦(本会常任学術顧問) / 「細胞診とHPV検査併用検診について」木口一成(本会検査研究センター) / 「子宮がん精密検診センターの実施成績」塚崎克己(慶應義塾大学医学部准教授)
- 乳がん検診「乳がん検診の実施成績」坂 佳奈子(本会がん検診・診断部)
- 乳房2次検診センター「乳房2次検診センターの実施成績」坂 佳奈子(本会がん検診・診断部)
- 【V 生活環境検査】**
  - 生活環境検査「生活環境検査の実施成績」本会母子保健検査部
- 【VI 研究・健康教育活動】**
  - 学会・研究会での研究発表等の活動 / 健康教育活動 / 2011年度の本会の概要